

日本考古学協会の図書とその受贈

文学部文化財学科教授 坂井秀弥

CROSS OVER

奈良大学図書館は、2014年、日本考古学協会所蔵の図書62,500冊余りを受贈することとなりました。すでに36,000冊ほどが配架され、2017年には作業完了の見込みです。

日本考古学協会は、会員数約4200人を擁する、考古学では最大の学会です。その設立は1948年、戦後日本の考古学の出発点となった静岡県登呂遺跡の発掘が契機です。見つかった弥生時代の集落・水田は、敗戦により自らの歴史を失った国民にとって、確かな足跡を証明するものであり、新鮮な歴史の象徴でもありました。

協会図書は、その約2/3が、全国自治体等の発掘調査報告書と一般図書類であり、残りが各種学会・研究会の約1,600種類もの逐次刊行物です。これらは協会設立以来、会員と関係機関から寄贈されたもので、関係者にとっては特別の財産ともいえ、希少な登呂遺跡の報告書等も含まれています。それが本学に寄贈されるに至った経緯には、紆余曲折がありました。

図書は1975年から千葉県市川市立考古博物館で保管されていましたが、全国的な発掘調査の急増や研究の進展に伴い、その数量は急増し、博物館が満杯となった2000年からは、埼玉県内の貸倉庫に保管されてきました。この状態では閲覧などの活用もままならず、協会は2006年に委員会を立ち上げてその取扱いを検討し、公的施設に一括寄付することとなりました。

2010年5月の総会で、寄贈先が英国のセインズベリー日本芸術研究所に決まると、会員から強い反対意見が出されました。反対声明は「協会に蓄積された図書は、敗戦後日本考古学の歩みをたどることができるかけがえのない“原本”群であり、それ自体が文化財です。安易に文化財を海外放出させるべきではありません。」とありました。同年10月にはその決定が覆り、マスコミでも話題になりました。再度、寄贈先を公募することとなり、本学は2012年の予備調査、翌年の公募に応募しました。競争相手があったと聞きますが、本学図書館は考古学関係の図書も豊富で、開架書庫での充実した閲覧サービスで定評もあり、多くの関係者から決定に安堵の声をいただきました。

協会図書は今後も継続して寄贈を受けることとなっています。それにより全国の報告書はもとより、入手しにくい各地の同人誌的な雑誌が今後も揃うこととなります。日本は世界屈指の発掘調査量を誇り、考古学の成果はきわめて膨大です。本学図書館が果たす役割は日本のみならず世界の考古学においても大きいといえるわけです。



現在、一階集密書架に配架中

図書館×クラブ&サークル

コラボ企画第一弾 「旅にしよう」

(4月19日～5月26日)

奈良大学図書館では、学生活動と連携した図書館活性化の第一弾として、部活とのコラボ企画を実施しました。

「旅」を切り口に集まった4つのクラブ&サークルの展示により、部活は新入生勧誘を、図書館は利用増加を目指しました。参加部員からの感想が届いていますのでご紹介します。



ユースホステル部

こんにちは！今回、図書館さんとのコラボで部活紹介と推薦図書の展示をさせていただきました、文化会所属団体のユースホステル部です。私たちユースホステル部は、年に4回全国各地のユースホステルを利用する合宿を計画し、旅を楽しむことを主な活動内容としています。ユースホステルとは、ドイツが発祥の世界最大の宿泊施設ネットワークのことで、世界では4000以上、日本だけでも200以上のお宿があります！また宿泊費が3000～4000円程度と格安なのが特徴です。ユースホステルによっては郷土料理や、体験ツアー等を宿泊者に提供してくれるところもあります。



私たちの活動を通してユースホステルを知ってもらい、旅に興味をもっていただけたらと思います。そこで、写真やお土産、雑誌を陳列して見やすく楽しい展示になることを目指しました。

また、せっかくの図書館さんとのコラボなのでこちらで5冊ほど推薦図書を用意しました。

みなさんが少しでも旅に興味をもっていただければ幸いです！

(史学科3回生 高朋代)

たびてつサークル

私たち「たびてつサークル」は、鉄道を利用して全国各地の観光地とグルメを楽しむ旅行サークルです！

関西の日帰り旅行と、青春18きっぷを利用して遠方への泊りがけの大旅行をメインに活動しています。

旅の中での「鉄道」は目的地へ向かうための「単なる移動手段」に思われがちですが、列車の車窓からは全国的名所や、今まで知らなかった日本の景色が広がります。

そんな鉄道で旅する楽しさを感じながら、列車に揺られて、私たちは日本各地を巡ります！

(地理学科3回生 藤森大志)



サイクリング倶楽部



今回私たちは旅をテーマにした展示をさせていただきました。ユースホステル部さん、ワンダーフォーゲル行道会さん、たびてつさんと四者四様の旅行形態の中でいかに我が部と文学とのつながり合いを出すのかを主眼に据えて展示を検討しました。

自転車で京都～奈良の寺社仏閣を巡ることが普段の活動の中心ですので、まずはみていただいた方がサイクリングをしたくなると思ってもらえるような本を選択し、展示もその点を意識しています。

また図書館との企画ということで、旅と文学といった見地から、それらの連関性にも踏み入ろうと試みました。非日常生活は、有史以来、文学者の想像力を刺激すると共に、多くの文学作品創作のきっかけになったものと思います。私たちも長期合宿を通じ、全国津々浦々を巡っているので、その点を落とし込めたらと工夫を凝らしました。

(史学科3回生 岩間公平)

ワンダーフォーゲル行道会

ワンダーフォーゲル行道会は山に登る部活です。そんな「山を旅する」部活として、今回の展示では「本と山の旅」を提案してみました。山が好きな人は、文豪達が山を見上げて書き綴った本の旅へ。本が好きな人は、ページを繰って山の魅力の旅へ。ガラスケースの中の原稿用紙や地図が、それぞれの旅への誘いになれば幸いです。

もう一つのガラスケースに展示している写真や道具にも、旅の記憶がたくさん詰まっています。

思いを馳せて、旅の香りを少しでも感じてみてください。

11月に行われる青垣祭では、教室を1つ貸し切って大規模な展示を行います。今回の展示を楽しんでくださった方は、また是非おいでください。

(地理学科3回生 梅宮初音)



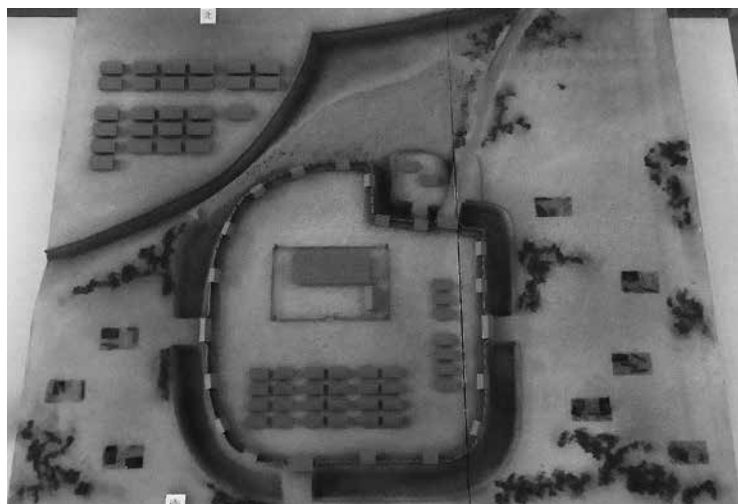
来場者の方からは「それぞれの特色が出ていて面白い」「またやってほしい」「旅に出たくなった」などの感想が寄せられました。

参加4クラブ&サークルからは、「入部者が昨年より増えました」という嬉しい報告があり、展示図書の出借利用もあったことから、おおむね所期の目的を達成して幕を閉じました。

学生活動との連携は今後も継続していきたいと

考えていますので、次回をお楽しみに！

特別展示 城郭模型『真田丸』



4月24日（関西エリア）日本テレビ系で放映の「所さんの目がテン！」にて使用された、千田学長監修の真田丸模型が製作元から大学へ寄贈され、2Fフロアに展示しました。

最新の研究成果を反映して、方形の曲輪として精密に復元された真田丸の模型が来館者の目を引いていました。

関連図書も所蔵していますので、この機会にご利用ください。

平成26年度、27年度図書館統計報告

日本考古学協会の寄贈図書受入開始にともない、所蔵冊数は大幅に増加して50万冊に迫っています。学生数の変化にあわせて入館者数は微減となりましたが、学生への貸出は増加に転じました。論文記事電子化の全国的な進行もあって文献複写の受付件数は減少しています。

今後もより良い図書館サービスの充実につとめてまいります。

年度	平成 26 年度	平成 27 年度	増減
開館日数	273	273	0
入館者数	109,359	107,653	▲ 1,706
図書所蔵数	463,026	495,389	32,363
内 和書※1	419,885	449,233	29,348
内 洋書	43,141	46,156	3,015
雑誌タイトル数	6,399	6,403	4
貸出総数	42,100	41,770	▲ 330
内 学生※2	37,887	38,158	271
学生一人あたり貸出※2	10.14 冊	10.66 冊	0.52 冊
相互協力利用（依頼）	421	435	14
相互協力利用（受付）	865	758	▲ 107

※1 中国書を含む。 ※2 通信学部生を含む。

後記

図書館報「みささぎ」23号をお届けします。今号よりカラーページを設け、小さくリニューアルして再登場です。

寄稿していただきました文化財学科の坂井秀弥教授、コラボ企画参加クラブ&サークルの島朋代様、藤森大志様、岩間公平様、梅宮初音様に御礼申し上げます。

「みささぎ」は図書館活動の報告に力点を移し、年2回発行予定です。

（編集担当）

発行：平成28年7月26日

編集：奈良大学図書館 奈良市山陵町1500